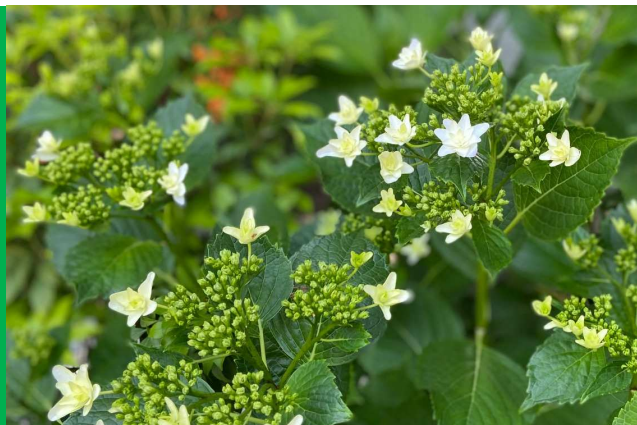


J-HPH Newsletter

No.14 JUNE, 2020

日本 HPH ネットワーク事務局
〒812-8633 福岡市博多区千代5丁目 18-1
千鳥橋病院内
TEL : 092-641-2761 (代表)
<https://hphnet.jp> office@hphnet.jp



研究・資料

高齢者をめぐる SDH と 「高齢者にやさしい病院とヘルスサービス認定 自己評価マニュアル」日本語版について

日本が世界で最も高齢化した超高齢社会であることは皆さんもご存知だと思います。2035年には高齢化率が33.4%に達すると予測されていますが、すでに北海道では50%を超えている市町村もあり、秋田県・高知県・島根県・山口県では、県単位でもこの33.4%をすでに超えています。

国際 HPH ネットワークの中でも台湾は日本よりも高齢化のスピードが速く、2020年代なかばにも日本同様に超高齢社会に到達すると予測されています。最近、COVID-19への対応でも注目を集めている台湾の保健福祉分野では、急速な高齢化の進行を視野に入れて、WHOの「WHO Active Ageing: Toward Age-friendly Primary Health Care」声明（2004年）を議論し、高齢者にやさしい医療の原則や国際 HPH ネットワークの基準に基づいて、2009年「高齢者にやさしい医療の枠組」を開発しました。

国際 HPH ネットワークにはいくつかのタスクフォースがありますが、「高齢者にやさしい医療の枠組」はそのタスクフォースの一つとして、世界各国で広がる Age friendly に関する取組と共同して推進しています（HPHと高齢者にやさしい医療タスクフォース）。

台湾ではすでに400以上の病院・高齢者施設で適用され、ここで紹介する「高齢者にやさしい病院とヘルスサービス認定自己評価マニュアル」も英語、ドイツ語、エストニア語、ギリシャ語などに翻訳されて各国で検証されています。

基準は「運営方針」「コミュニケーションとサービス」「ケアプロセス」「物理的環境」の4つの大基準を中心に、以下11の副基準、60の測定可能な評価項目で構成され、各施設で自己評価し、各国のRegional HPH ネットワークあるいは国際 HPH ネットワークによる外部評価を行っていくことで、各施設での活動を評価・分析し、質を改善していくことができます。また、高齢者に対するヘルスプロモーションに関する共同研究プロジェクトなども可能となると考えています。各基準を少し詳しく見てみましょう。 (P2 へ続く)

目次

研究・資料	1
「高齢者にやさしい病院とヘルスサービス認定自己評価マニュアル」	
「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」	
「ヘルスプロモーション（HP）活動が職員の喫煙率や喫煙防止の意識におよぼす効果」についての研究の概要と進行状況について」	
「患者さんの暮らしに関する情報を把握するための、簡易的質問項目の開発に関するパイロット研究」	
国際 HPH ネットワーク TOPICS	4
ロゴマークが新しくなりました	
新型コロナウイルス（Covid-19）発生中のヘルスプロモーション	
国際 HPH カンファレンス 2020	
加盟事業所の取り組み	5
一般社団法人群馬保健企画 あおば薬局渋川店	
医療法人財団アドベンチスト会 東京衛生アドベンチスト病院	
医療生協さいたま 秩父生協病院	
出雲医療生活協同組合 大曲診療所	
公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院	
加盟事業所数・新規加盟事業所	9
日本 HPH ネットワーク TOPICS	9
第5回 J-HPH カンファレンス	

基準 1 : 運営方針**1.1 高齢者にやさしい方針づくり**

各施設の質や経営に関する計画で、「高齢者にやさしい方針」が優先課題になっているか、方針が具体的な文書として作成されているか、担当者が明確になっているかを見ます。

1.2 組織によるサポート

サービスや資材のための予算確保、方針を実施していくための情報システムの機能、スタッフの配置・研修、ベストプラクティスや改善例の奨励、方針作りや見直しへのスタッフの参加などを見ます。

1.3 継続的監視と改善

質、安全、患者満足度などで年齢による分析がされているか、質の評価や関連する活動、組織文化づくり、ケアのアウトカム評価などを見ます。

基準 2 : コミュニケーションとサービス**2.1 コミュニケーション**

日常の診療や介護活動における高齢者とのコミュニケーションや、施設の運営などが高齢者にふさわしい設定となっているか、教育などの情報提供のデザイン、高齢者の自己決定権などを見ます。

2.2 サービス

認知症を含めた高齢者の個々のニーズに合わせたサービス、経済的困難への支援、ボランティアプログラムによるサポートと高齢者自身のボランティア参加などを見ます。

基準 3 : ケアプロセス**3.1 患者評価**

高齢者特有の疾病やヘルスプロモーションに関するガイドラインの使用状況、高齢者のハイリスク・スクリーニング、薬の服薬状況についての管理、患者ニーズへの対応、カルテ記載などを見ます。

3.2 介入と管理

健康に関する介入とその評価、健康的な加齢に関する情報提供、リハビリテーション、高齢者総合評価、退院時の調整機能などとそれらのカルテ記載を見ます。

3.3 地域のパートナーシップとケアの継続性

患者組織に関する情報提供、ケアの継続のための様々な連携先と実際のケアの継続性に関する運用、院外ケアサービスについて見ます。

基準 4 : 物理的環境**4.1 総合的環境と設備**

ユニバーサルデザインの採用、安全性や快適性も考えた高齢者にやさしい施設（カナダの取組が参考になります）などを見ます。

4.2 交通と利便性

高齢者のアクセスしやすさ、シャトルサービスや玄関などの設備・対応を見ます。

4.3 表示と身分証明

施設内のわかりやすい表示とスタッフの名札着用やスタッフのネームボードなどを見ます。

これらを細かい小項目ごとに 6 段階で自己評価できる仕組みになっています。

さらにマニュアルでは、「高齢者にやさしい医療のための基礎研修コース」や、さらに進んだ「高齢者にやさしい医療の中核能力のための基礎研修コース」も定められていて、それぞれの国の現状にあった内容で学習するしくみも提供されています。

J-HPH では、2019 年 3 月の第 4 回 J-HPH スプリングセミナーで、台湾でこの取組を推進し、国際 HPH ネットワークの「HPH と高齢者にやさしい医療」タスクフォースのリーダーでもあるシュウチ・チョウ（邱淑媿）先生を招き、台湾での取組を講演いただきました。その後、「高齢者にやさしい医療とヘルスサービス認定自己評価マニュアル」の日本語版を作成・承認をいただき、2019 年 10 月の第 4 回 J-HPH カンファレンスでは、「高齢者にやさしい医療のための基礎研修コース」のワークショップを開催しました。

今後も J-HPH では、「高齢者にやさしい医療とヘルスサービス認定自己評価マニュアル」の普及に努め、各施設の自己評価の取組を支援し、超高齢社会に対応した医療・介護のシステム構築に貢献していきたいと考えています。



尾形和泰(運営委員・勤医協
札幌病院)

HOME > 研究・資料>

「高齢者にやさしい病院とヘルス
サービス認定自己評価マニュアル」



<https://www.hphnet.jp/whats-new/5712/>

「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」・「症例事例集」

経済的な貧困は病気の原因になります。このため、医療・介護スタッフは患者・利用者さんの経済状態を把握し、経済的に困窮している場合は社会資源を活用して支援することが求められます。

当ネットワークでは、全日本民医連 SW 委員会の協力のもと、患者・利用者さんの経済状態を把握するための問診項目を整理し、現場で活用できる社会資源制度をリスト化したツールを制作しました。このツールは次の3段階の構成になっています。

経済状態を問診する



貧困が健康のリスクであることを
患者さん・利用者さんに伝える



制度を活用した支援をする

本ツールを活用し、患者・利用者さんの経済状態に関心を持ち、社会資源の活用により患者・利用者さんの健康の改善や必要な医療と介護へのアクセスが保証できるように支援して下さい。

なお、質問は、患者・利用者さんが安心して答えられる環境を作り、場合によっては何度かの受診・利用の際に情報を集めることも考慮してください。「症例事例集」は、事例と対応例で構成しています。社会保障制度は変更されますので最新の制度をご確認ください。「経済的支援ツール」・「症例事例集」ともに無償でダウンロードいただけますので、ご自由にお使いください。



HOME>研究・資料>「医療・介護スタッフのための経済的支援ツール」・「症例事例集」

<https://www.hphnet.jp/whats-new/5185/>

「ヘルスプロモーション(HP)活動が職員の喫煙率や喫煙防止の意識におよぼす効果」についての研究の概要と進行状況について」

西淀病院は 2014 年 11 月に J-HPH ネットワークに加盟、2016 年からは医師会や区役所と共に地域の喫煙率を低下することを目標に、公立小中学生やその保護者を対象に喫煙防止教室を取り組んでいます。2018 年からは、このような HP 活動が効果があるのかを明らかにする研究を実施しており、2020 年度の研究計画としては、「HPH 活動が職員の喫煙率や喫煙防止の意識におよぼす効果」についての研究を行うこととしました。

第 4 回 J-HPH 総会、コーディネーターワークショップで研究計画を紹介してもらい、J-HPH メーリングリストで共同研究参加を呼びかけたところ、13 事業所から参加登録をいただきました。研究内容の詳細は、職員に禁煙のための HP 活動を行うことで、J-HPH に加盟していないあるいは禁煙のための HPH 活動を積極的には行っていない医療機関と比較して、職員の喫煙率がより低下するのか、あるいは喫煙防止の意識がより改善するのかを調べます。これまでの研究では病院職員を対象にしたものはなく、HP 活動に職員の喫煙率を下げる効果があるかどうかは明らかにされていません。これを明らかにすることで、医療機関・介護施設が J-HPH に加盟して HP 活動を行うことで、職員の喫煙率を下げるのが期待できるのではないかと考えたのでした。

介入群の 3 事業所（岩手：川久保病院、山梨：巨摩共立病院、岐阜：岐阜民医連）とは直接会ったり、Web 会議で打ち合わせを行い、今後も定期的な打ち合わせを実施予定です。

介入内容としては地域向け、職員向け、患者向けに積極的な禁煙活動を実施し、全職員が必ず 1 回は実施することを条件にしております。また、対照群の 10 事業所（青森県：健生病院、長野県：健和会病院、群馬県：利根中央病院 京都府：京都市城南診療所、大阪府：耳原総合病院、博愛会西島診療所、兵庫県：尼崎医療生協病院、香川県：高松平和病院、福岡県：千鳥橋病院、熊本県：くわみず病院）は、これまで通りの HP 活動は実践していただきながら、前・後のアンケート調査をお願いしています。

COVID-19 対策の影響で、各事業所では現在も地域活動ができていない状況下であり、当初考えていた研究機関を延長することを検討しております。第 5 回 J-HPH カンファレンスが Web 開催となったこともあり、研究参加事業所で集まることはできませんが、定期的な Web 会議を実施していく予定です。

野口 愛（公益財団法人淀川勤労者厚生協会 西淀病院）

「患者さんの暮らしに関する情報を把握するための、簡易質問項目の開発に関するパイロット研究」 Vol.1 APR. 2020

研究の取り組みをウェブサイトに掲載しました。

HOME > 研究・資料 > 研究情報

<https://www.hphnet.jp/whats-new/5884/>

国際 HPH ネットワーク TOPICS

ロゴマークが新しくなりました。

国際 HPH ネットワークのロゴマークがリニューアルしました。

HPH 加盟事業所の方は、ご自由にご使用いただけます。ウェブサイトよりダウンロードください。



HOME > ロゴの利用について

<https://www.hphnet.jp/download.html>

新型コロナウイルス (Covid-19) 発生中のヘルスプロモーション

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生は、多くの医療介護従事者や保健医療施設の責任者にとって、経験したことのない想定外の事態です。この度のコロナウイルスの発生により、私たちだけでなく、とりわけウイルス感染者やより高いリスクを抱えた人々は、不安や苦悩を感じるかもしれません。このような時期にヘルスプロモーション (健康増進) の環境を整えるというのは、大きな挑戦です。同時に、今ほどこの仕事が重要になる時はありません。

メンタルヘルス(精神衛生)と心理社会的な健康状態は、ヘルスプロモーション (健康増進) において非常に大きな役割を担っています。HPH ネットワークは、十分な連絡と効果的な介入を準備することにより、サポートを提供していきます。

国際 HPH ネットワークでは、世界保健機関 (WHO) の勧告に基づき、COVID-19 発生時のメンタルヘルスと心理社会的健康に関する情報シートをウェブサイトに掲載しています。

これらの情報シートをスタッフや治療する患者さんのためにご活用ください。この資料は、データ形式又は印刷して配布いただけます。



HOME > 新着情報 > 新型コロナウイルス (Covid-19) 発生中のヘルスプロモーション情報提供 | 国際 HPH ネットワーク

<https://www.hphnet.jp/whats-new/5929/>

第 28 回国際 HPH カンファレンス 2020

開催日: 2020 年 10 月 18 日(月)~21 日(水)

開催地: 韓国ソウル市西大門区延世大学コンベンションセンター

主催: 韓国 HPH ネットワーク

* 開催の最終決定は、カンファレンスの参加登録開始前に検討し発表されます。



https://www.hphnet.jp/conference/2020_guide.html

加盟事業所の取り組み

一般社団法人群馬保健企画 あおば薬局渋川店

「経済的支援ツールの活用について」

あおば薬局渋川店の HPH 活動は「高齢者のたまり場への出前健康講座」や「店舗での健康教室の開催」、「店舗内での健康サポートコーナーの設置」、「8000 歩チャレンジの取り組み」、「受診中断患者さんへの電話かけ」「職員の運動習慣の調査」などを行っています。薬局をご利用いただいている患者様に加えて地域住民の健康リテラシーを高めることを視野に入れて様々な活動を行っています。

この中で受診中断患者さんへの電話かけは 10 年以上にわたり活動を継続しています。慢性疾患を抱えた患者さんで薬が飲み終わっても来局されない方を対象に電話かけや訪問して治療が中断していないか、何かお手伝いできることはないかなど相談業務を行っています。しかしソーシャルワーカーなど専門職を配置していないことや年齢の若い職員が多いことで、どこに「視点」を向ければよいかわからないことがあります。また、「発見した困難」に対して解決へのアプローチをどのように進めればよいかわからない時もあります。

昨年の HPH カンファレンスで「経済的支援ツール」が紹介されました。このツールは患者さんの抱えている困難を見つけるための様々な「視点」とそれを解決するための支援方法がまとめられている



非常に分かり易い資料であると感じました。経済的な支援にはどのようなものがあるかを知り、紹介していくことを目的に「経済的支援ツール」を取り寄せ、まずは学習を進めています。受診が中断している患者さんに限らず、普段薬局をご利用いただいている患者さんにも健康や生活上で抱えている困難を見つけ、それに対して適切な支援ができるようなスキルを獲得したいと思います。



(あおば薬局渋川店 健康サポートコーナー)

医療法人財団アドベンチスト会 東京衛生アドベンチスト病院

東京衛生アドベンチスト病院は母体であるキリスト教会が、100 年以上前から病気予防の大切さに取り組んできたことから、病院内外への健康増進の働きは以前より活発です。その独自の健康的な生活様式を表す英語の頭文字をとって **NEWSTART** (ニュースタート) 健康法と呼び、当院でさまざまな取り組みをしていますが、その一部をご紹介します。

Nutrition (栄養) 菜食を中心としたバランスの良い食事を摂る。 当院が提供する食事は職員食・病院食とも卵と牛乳は使う卵・乳菜食で、野菜たっぷりの食事を提供しています。当院の減量講座レシピブックもベジタリアン用です。

Exercise (運動) 適度に運動する。

リハビリテーション科が診療時間外に施設を職員に開放しています。

Water（水）水分を適量摂取する。

院内に無料給水器を設置しています。

Sunshine（日光）日光を適量浴びる。

病院の中庭や緩和ケア病棟のテラスに椅子があり日光浴ができます。

Temperance（節制）お酒を飲んだりたばこを吸ったりしないことなどの節制。

1966年に当院で「5日でタバコが止められる」講習会を始め、禁煙外来のきっかけを作りました。当院の職員禁煙率は自己報告によると0.56%（2019年度調べ）です。

Air（呼吸）新鮮な空気や正しい呼吸法。

当院は大都市の中にありますが、中庭や玄関前ロータリーに多くの樹木が植えられています。

Rest（休息）適度な休息。

毎週土曜日は、休診になります。

Trust（信頼）信頼できる存在は心身の健康に影響を及ぼす。

当院では人を分け隔てなく大切に思う神が信頼に足る方を、丁寧な医療を通して証します。チャプレン（病院付牧師）が様々な場面で患者・家族の霊的な側面を支援します。

ここにご紹介した NEWSTART 健康法にそった活動を、地域のみなさまにも知っていただき健康啓発につなげるために健康祭や NEWSTART 健康法を用いた健康相談、ラジオで当院の医療従事者が健康情報を提供したり、日本全国にある教会で健康講話を実施したりしています。

前述した毎年春に行う健康祭では、健康講演会、健康相談や体組成測定など無料の検査・体験コーナー、菜食弁当や健康食品販売の他、子どもたちが医師や看護師の白衣を着、なりきって写真撮影をしたり腹腔鏡機器の操作体験をしたりといったコーナーを設けたりしています。



引き続き、病院内外へのより一層の健康啓発に努めていきたいと思っています。



（東京衛生アドベンチスト病院 健康祭 健康講演会の様子）

医療生協さいたま 秩父生協病院

街かど健康チェックの取り組み

秩父生協病院のある医療生協さいたま秩父地区には、組合員の自主的活動の単位である支部が13あります。そのうちの9つの支部が「街かど健康チェック」をしています。支部地域内にあるスーパーマーケットなど了解を得て、その店頭で、買い物客を対象に、血圧測定、体脂肪測定、踵骨超音波測定などをおこないっています。冬の寒い時期を除いた4月～11月にかけて月に1回1時間～1時間30分程度、それぞれの支部が実施日を定例化しおこなっています。また、それぞれの支部は支部ニュースで次回の実施日程をお知らせします。測定した結果については基準値（正常値）が示されているカードに記入し、チェックを受けた人に返します。数値のよくない方には受診をすすめます。支部の組合員が受付や測定、結果の記録など分担しておこない、派遣依頼を受け同行した秩父生協病院の職員が結果の説明をします。

街かど健康チェックは、健康に関心を持ってもらい、日常生活を振り返ってもらう機会にすることを目的に、また、こういった健康づくりの活動をしている医療生協さいたまや秩父生協病院の存在を地域に知らせ、なにか困ったことがあったら気軽に連絡し相談できる場所であることをお知らせする目的を持っています。毎年、約500～600人の健康チェックをおこなっています。また、2019年度は、健康チェックを実施する組合員に対して、あらためて、チェックの仕方、

結果の見方、関連する病気、運動や食事について、秩父生協病院の看護師を講師に「健康チェック学習会」をおこないました。組合員 20 名の参加でおこないましたが、今年度も実施し、より多くの支部組合員が、街かど健康チェックにかかわればと思います。

街かど健康チェックには、支部ニュースをみてチェックを受けに来る人もいます。また思いがけず偶然通りかかり、チェックをしている組合員と面識があって、「あら、ここで何をしているの?」という会話もされます。会話がはずみ世間話のなかから、困りごとの相談になったり、支部のサロン活動へのお誘いにつながったりもします。高齢化が進んでいる秩父地域では、この街かど健康チェックは、困りごとへの対応や孤立を防ぐとりくみの第一歩にもなっています。今後は、さらに回数を増やし、また、より多くの場所で実施できるようになればと思います。



(秩父生協病院 健康チェック学習会の様子)



出雲医療生活協同組合 大曲診療所

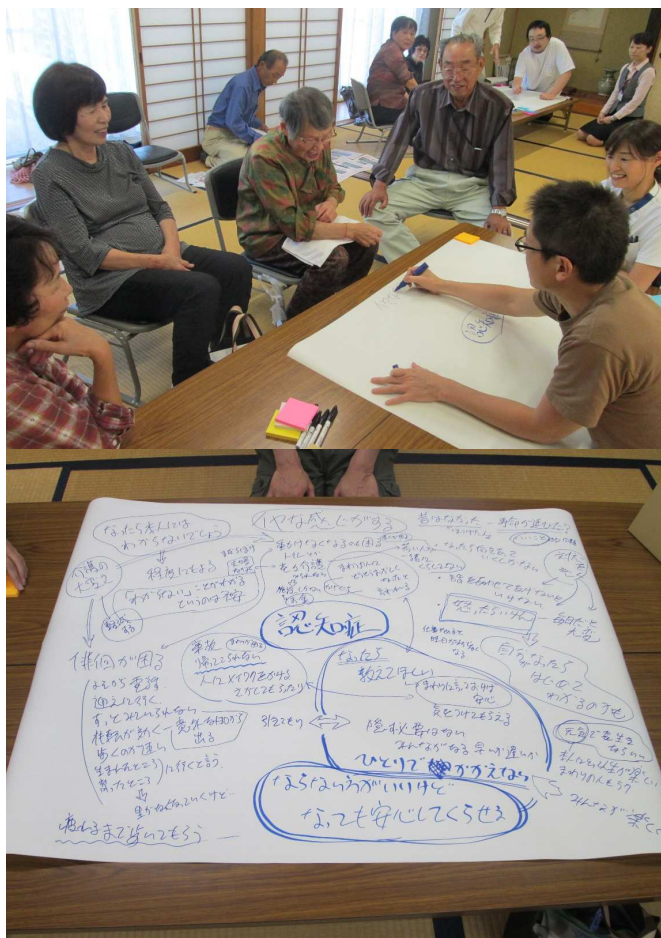
大曲診療所は、68 年の歴史ある診療所です。医療生協ということもあり、地域の組合員さんをはじめとした住民の方を対象に、何十年も前から健康教室を行ってきました。2006 年からは、家庭医が常勤医師となって地域の健康改善に取り組んでいます。

医師の間では以前から、地域の健康活動で「知識のある医療者が有難いお話をして、住民がそれを拝聴する」というスタイルに違和感がありました。スタッフみんなで健康活動について学ぶ中、権威勾配に沿った一方通行である点や、医学的正論が現場の問題を解決するとは限らなかったり、知識を日常生活の改善に結びつけにくかったりすること、教育レベルや意識の高い人がより恩恵を受けやすく健康格差の拡大を招く可能性などを知りました。

その上で、学びは自分の参加している社会の日常的な経験から行われること、学びや知識は日常的な活動が根ざす状況の中にあることを知り、知識の獲得・伝達・操作は文化的社会的文脈の中で考えることが大切だと考えるようになりました。

そこで、数年前から行っているのが「教えない健康教室」です。基本的に知識の伝達はしません。最近はパワーポイントも使用しません。「認知症について」「終末期について」などお題に設定した健康問題について、地域の方や診療所のスタッフが一緒になって色々と意見を出し合い、それを模造紙に書き込んでいく、といった教室です。この教室では、参加者それぞれがお題になった健康問題について持っているイメージや考えを知ることができます。もちろん、医学的に必ずしも正しいとは言えない意見も出されますが、間違いを訂正するというより「自分はこう思うけどな〜」「こういったことも言われているみたいだよ」といった形でのより正確な情報提供を心掛けています。こうした意見交換を通じて、健康問題への理解や対応力を身につけてほしいと考えています。検証はしていませんが。

今後の活動については、認知症や寝たきりにならないために・・・といった内容も良いのですが、認知症蔑視やエイジズムの裏返しになってしまう可能性を危惧します。加齢や認知症、死などに対する蔑視や拒否感、恐怖などをテコにした活動ではなく、これらを受け入れることも含めた健康教室を行っていきたいと考えています。



(大曲診療所 健康教室の様子)

公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院

ノーリフトの取り組み紹介 職員チーム ノーリフトコアチーム

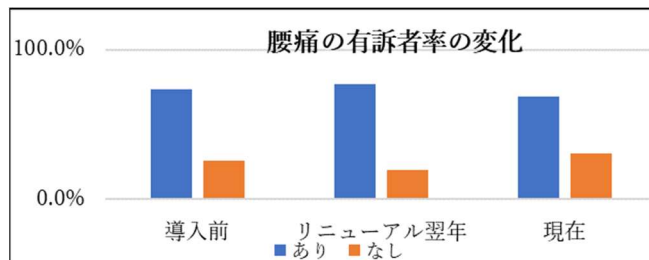
<はじめに>

当院は、2011年から職員の健康づくりの一つとして、ノーリフトを滋賀医科大学との共同研究で実践し、同時にアンケートで評価を行ってきました。期間中の2014年に病棟のリニューアルを行いました。大学との共同研究が終了し、今回ノーリフトコアチームで法人独自のアンケートを作成、法人の看護職とリハセラピストを対象に実施しました。今回は、千鳥橋病院看護職のアンケートを示しながら紹介します。

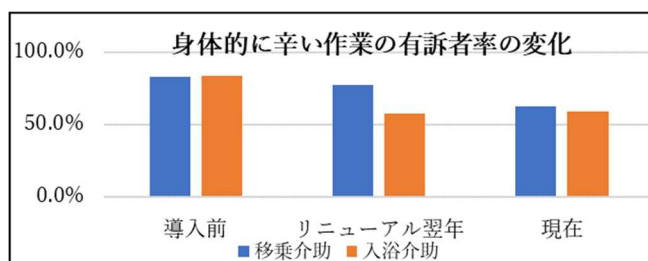
<アンケート結果>

図1, 2は、ノーリフト導入前(2011年度)・リニューアル翌年(2015年度)・現在(2019年度)に行ったアンケート結果を比較したものです。

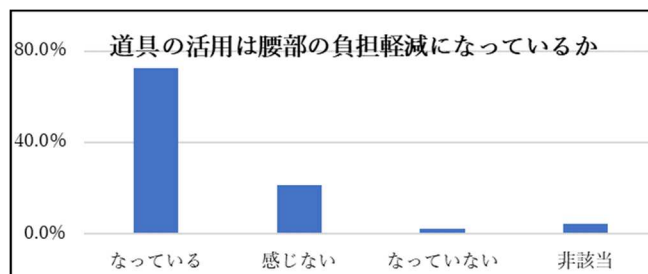
まず、図1は「腰痛有訴者率」についての結果です。2015年度では「腰痛なし」と答えた職員は19.6%だったものが、2019年度では31.5%と増加しています。(図1)



次に図2は「身体的に辛い作業」15項目の中で特に割合が高かった入浴介助と移乗介助の2項目について比較したものです。(図2)



(図3)



2011年度では「入浴介助が辛い」と答えた職員は83.4%だったものが、簡易シャワートローリー（ストレッチャータイプで背中にお湯を張り、仰臥位のままで入浴できるもの、寝たきりの患者も楽に入浴介助が可能）と入浴用リフトなどの道具を導入したことによって、58.6%に減少しました。また「移乗介助」については、スライディングシートや移乗ボートの活用で83.0%から62.5%に減少しました。

最後に図3の「道具の活用は腰部への負担軽減になっているか」の質問では「なっていない」と答えた職員は僅か2%でした。腰部固定帯着用状況についても30.6%から23.9%に減少しており、道具の有用性はあると考えます。

<ノーリフトの取り組み>

日本ノーリフト協会のノーリフトコーディネーターの研修を3名が受講し、3名を中心にノーリフトコアチームを立ち上げ、定例会議で職場間の情報共有、職場ラウンドで道具の点検や実技指導をしてい

ます。また、法人看護部を対象に新卒看護職研修、職場の指導者養成研修やクリニカルラダーを年間計画に組み込んでいます。

<活用している道具>

移乗ボード（プラスチックダンボールで独自に作成）・スライディングシート・介助グローブ・入浴用リフト（亜急性期の病棟）・入浴介助用簡易シャワートローリー・ストレッチャータイプの体重計

<まとめ>

今回のアンケートで、腰痛有訴者率が50%台になっていると予想していましたが、結果は前述のとおりです。これは、環境因子として建物の構造変化や入退職等で対象が固定されていないこと等が考えられます。今後もこれらの環境因子に加え、介助量の多い入院が増えることが考えられ、ノーリフトはケアをする上で必須の課題であると考えます。



(千鳥橋病院・職場の指導者養成研修の様子)

* 今号に掲載の「加盟事業所の取り組み」の内容は、新型コロナウイルス(Covid-19)流行以前にお寄せいただいた原稿を掲載しています。現在の活動状況と異なる場合があることをご了承ください。

加盟事業所数・新規加盟事業所

加盟事業所数 115 2020年5月23日現在
内訳：病院 69・クリニック 15・薬局 7・ヘルスサービスと研究機関 24 (うち準会員 2事業所)

新規加盟事業所

広島・広島医療生活協同組合
京都・公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院

日本 HPH ネットワーク TOPICS

第5回 J-HPH カンファレンス 2020 (WEB 開催)

日程：2020年11月7日(土)

テーマ：

「COVID-19 蔓延期におけるヘルスプロモーションの課題と対応」(仮題)

詳細は、決まり次第お知らせします。なお、ポスターセッションはありません。

今後の予定

2021年3月13日(日) J-HPH スプリングセミナー
2021年秋 第6回 J-HPH カンファレンス(通常開催)

原稿募集 | 加盟事業所の取り組み

皆さんの事業所の HPH の取り組みをご紹介ください。お寄せいただいた原稿は、J-HPH ニュースレター、ウェブサイトでご紹介させていただきます。原稿は、Word にて、活動の様子が分かる写真 2 点を JPEG にて事務局までお送りください。原稿をお待ちしています。E-mail: office@hphnet.jp

J-HPH に加盟しませんか？

皆さんの事業所のヘルスプロモーションの発展と国内外で相互の交流と推進に HPH に加盟しませんか。

HOME > 加盟・更新手続 > 記入方法・書式

<https://www.hphnet.jp/accesion/entry.html>